

鵜飼教授が、社団法人日本地すべり学会会長に就任！

地震地すべりの原因究明とその対策技術の開発に期待

平成22年5月14日、本専攻の鵜飼恵三教授が、社団法人日本地すべり学会（会員数は約1900名）の新会長（任期二年）に推挙され、総会では満場一致で就任が可決された。

同学会は、斜面変動現象および災害防止対策に関する調査、研究、受託及び助成等を主な目的として1963年に任意団体として創立されたもので、その後、1999年8月には科学技術庁（現文部科学省）から社団法人として認可され、今日に至っている。2002年12月には、「地すべりに関する国際学術研究機構」（International Consortium on Landslides）に加盟、また2010年4月には中国甘肅省地すべり・土石流研究会との研究交流協定に調印するなど、各国研究者との交流を深めるとともに、世界をリードする研究活動を推進する。

わが国は環太平洋の島弧、プレートの沈み込み帯に位置し、火山が多く、地震も頻発する自然状況にある。また、降雨量も多く、国土の大半は山地である。こうした地形・地質条件および気象条件が、斜面災害を発生しやすくしており、毎年のように、尊い人命が奪われている。斜面安定解析が専門である鵜飼教授が新会長に就任したことで、近年の内陸直下型地震で多発する地震地すべりの原因究明と対策技術の開発が今後加速することが期待されている。

